

京都



「京都は観光と伝統工芸の職人の街。御所御用達のモノづくりで栄え、高級品、流行品の発信地でした。京都人には、現代の都会人の原点ともいえる、冷淡かつ冷徹な気質があります。また、京都人は「京都ブランド」のブランド力を熟知しており、あらゆるものに“京”の冠を掲げて市場を広げています。今後もこの手法は有効で、京セラや高津製作所など、京都に本社を持つ企業が、本社を動かさないのは、京都という全国に通用するブランド力の強さを実感しているからでしょうね」(丹波氏)

アート感漂う左京区、
落ち着いた雰囲気の一乗寺・北白川。



「米同時多発テロ(2001年)を機に、日本人が海外旅行を自粛して以降、国内でも特に京都への観光客が増えました。特に四条烏丸では昔のレトロビルが商業施設として改装され、若い世代を呼び込んでいます。『エルマガジン』2006年11月号で「左京区特集」を組みましたが、書店の恵文社一乗寺店を中心に、カルチャー好きな人が集まっています。一乗寺や北白川、哲学の道周辺はスローライフを感じさせる落ち着いた雰囲気があり、旅慣れた人が訪れている場所ですね」(蔵氏)

「幕末に開港し、ヨーロッパ航路の発着点となった神戸は、ハイカラな欧州文化が定着し独特な雰囲気を持つようになりまし。阪神間の芦屋は、昔から大阪の船場で財を成した商人のベッドタウンとして栄えた街。しゃれた住宅街として欧風の独特の雰囲気を持つ神戸は、クールで淡白な風土性が特徴でしょうね」(丹波氏)

クールで
淡白な
風土性。



センスで勝負。
芦屋や東灘区に代表される、
洗練のイメージ。

「派手さはありませんが、落ち着いたオシャレなイメージが定着しています。芦屋や東灘区に代表される洗練されたイメージや、海岸通りなどにあるレトロビルのおしゃれな個性の店などは、神戸独特ですね。最近では観光客の数もだいぶ盛り返しているようです。神戸は地元を愛する人が多い。だからファッションの店やレストランなども、昔から続くこぢんまりとした地元の名店が多いと思います」(蔵氏)

「京都人
らしさ」に
こだわらる。

街

神戸



サービス精神旺盛。
とにかく
粘り強い。

「大阪は小売ではなく“卸の町・商都”としての役割を担っていました。中小企業が多いのも大阪の特徴で、船場などは繊維の町として戦後まで隆盛を誇っていたほど。今でも独自の技術を持つ、存在感ある企業が多いのもそのためです。こうした歴史があるためか、大阪人には粘り強さがあります。また、武家社会ではペラペラとおしゃべりをするのは“はしたない”とされていたが、役人(武士)の存在が希薄だった大阪では町人文化が盛んで、よくしゃべる気質が良しとされていました。それが現在でも大阪ならではのユーモラスなサービス精神として受け継がれています」(丹波氏)

大阪



京阪電鉄
中之島線の開通に期待!

「今後、注目されるスポットは中之島。今年10月19日の中之島線開通に向け、開発が進んでいます。堂島川と土佐堀川に船を回遊させる計画もあり、周辺はデザイン事務所のgraf(グラフ)、歴史的建造物の中央公会堂、国立国際美術館、バラ園などがある文化エリア。今後面白いエリアになると思います。一方、ミナミ・道頓堀・新世界などは、外部資本の飲食店などの進出により、地区独特の昔ながらの文化が姿を消しつつあるのが残念なところ。梅田地区は、2011年に北ヤードの再開発が完了する予定で、今後の発展に期待です」(蔵氏)

街



この人に聞きました!



「こんなに違う
京都人と大阪人と神戸人」
(PHP 研究所刊) 著者
丹波 元氏
Hajime Tanba

人



京阪神エルマガジン社
「エルマガジン」編集長
蔵 均氏
Hitoshi Kura

街

1962年生まれ。大阪府出身。早稲田大学卒業後、編集プロダクションや広告会社に勤務。96年に京阪神エルマガジン社入社。「SAVVY」編集室を経て、2004年2月から「エルマガジン」編集長。月刊「エルマガジン」は1977年創刊。京阪神のカルチャー情報誌。28万部発行。

地元ゆかりの作家&編集長が三都を分析!
コンテンツの源流は、「人」「街」にあり。